令和３年(２０２１年)８月６日
生 涯 学 習 審 議 会
生涯学習政策課　審議資料①

令和２年度（2020 年度）生涯学習関連事業評価について

■生涯学習プランの進行と管理

プランに掲げる生涯学習施策を推進するには、教育部門だけではなく、福祉、保健、医療、子ども、環境、産業振興など、さまざまな分野の計画・事業実施所管と連携し、学習、啓発、市民協働の取組を行っていく必要があります。本市では、庁内に「生涯学習推進会議」を設置し、全庁的な体制のもとにプランを推進し、本市における生涯学習社会の実現を目指します。

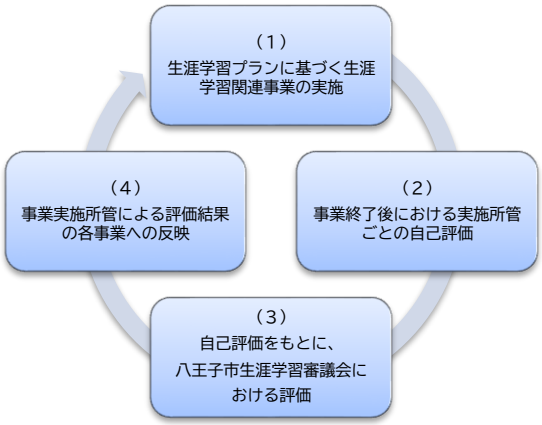
また、市民委員や学識経験者で構成する「生涯学習審議会」を開催し、市民感覚を反映した生涯学習の振興に関する施策の審議、生涯学習に関する施策及び事業の検証と評価を行っています。

■事業の点検と評価

生涯学習関連事業評価は、生涯学習プランの示す「施策の展開」が着実に実現されているかを年度ごとに点検するものであり、全庁の生涯学習関連事業の発展に活用するための見直し・改善のプロセスとして実施します。

また、社会情勢・市民ニーズの変化、国や都の動向に対応しながら、必要に応じて事業の実施内容を見直します。

事業の点検は生涯学習プランに掲載の取組を対象に行います。



■進捗状況をはかる指標

「生涯学習プラン」の推進にあたり、基本施策ごとに次のとおり指標を設定します。この指標を目安として施策の進捗状況をはかります。

基本施策１　誰もが学べる環境づくり　～まなぶ～		
●指標１　生涯学習活動をしている市民の割合	平成 30 年度（2018 年度） 現状値：52.2%	目標：毎年度、 前年度を上回る
○生涯学習の充実度をはかる指標です。より多くの市民が具体的な生涯学習活動を行っていることを目標とします。		
基本施策２　学びから広がる地域づくり　～いかす･つながる～		
●指標２　生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合	平成 30 年度（2018 年度） 現状値：8.9%	目標：毎年度、 前年度を上回る
○生涯学習の成果を地域への還元度をはかる指標です。より多くの市民が、学びの成果をまちづくりの中で活かし、地域や社会の中で活動することを目指します。		
基本施策３　学びを支える基盤づくり		
●指標３　SNS を活用した講座・イベント情報を発信し、フェイスブック等の閲覧数	平成 30 年度（2018 年度） 現状値：22,362 件	目標：毎年度、 前年度を上回る
○生涯学習情報が市民に提供されている状況をはかる指標です。情報発信数とともに閲覧数の増加を目指し、市民の生涯学習活動参加を促します。		

■令和２年度（2020 年度）の所管評価の概要

令和2年度（2020 年度）は、生涯学習プラン（令和 2 年度～令和 6 年度）における 5 年間の計画期間のうち最初の年度の位置付けとなります。

所管評価

評　価	説明	令和２年度（2020年度）		令和３年度（2021年度）		令和４年度（2022年度）		令和５年度（2023年度）		令和６年度（2024年度）	
		事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率
A	目標以上の成果があった	9件	7%	-	-	-	-	-	-	-	-
B	計画・目標どおりに達成できた	44件	34%	-	-	-	-	-	-	-	-
C	計画・目標の一部が達成できなかった	16件	12%	-	-	-	-	-	-	-	-
D	達成できず困難な課題がある	0件	0%	-	-	-	-	-	-	-	-
評価なし	天候による中止等により評価なし	60件	47%	-	-	-	-	-	-	-	-
集計中	担当所管により集計中	0件	0%	-	-	-	-	-	-	-	-
合　　計（プラン掲載事業）		129件	100%	-	-	-	-	-	-	-	-

■令和２年度（2020 年度）の進捗状況をはかる指標

指標1　　生涯学習活動をしている市民の割合

	平成30年度（2018年度）	令和元年度（2019年度）	令和2年度（2020年度）	令和3年度（2021年度）	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）
割合	52.2%	57.9%	56.9%	―	―	―
増減		0.057	▲ 0.010	―	―	―

指標2　　生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合

	平成30年度（2018年度）	令和元年度（2019年度）	令和2年度（2020年度）	令和3年度（2021年度）	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）
割合	8.9%	8.6%	7.1%	―	―	―
増減		▲ 0.003	▲ 0.015	―	―	―

指標3　　SNSを活用した講座・イベント情報を発信し、フェイスブック等の閲覧数

	平成30年度（2018年度）	令和元年度（2019年度）	令和2年度（2020年度）	令和3年度（2021年度）	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）
閲覧数	22,362	413,504	537,056	―	―	―
増減		391,142	123,552	―	―	―

基本施策１　誰もが学べる環境づくり　～まなぶ～

生涯学習関連事業 49 件

施策の展開		事業数（件）	具体的な施策		事業数（件）
01	子どもの頃から始める生涯の学び	14	001	子どもたちが体験できる機会の充実	5
			002	子どもたちに向けた各種講座・教室の充実	7
			003	青少年の海外交流・都市間交流の実施	2
02	人生100年時代を見据えた多彩な学習機会の充実	21	004	人生を豊かにする多様な講座の提供	3
			005	郷土の歴史や文化財に親しむ	3
			006	文化芸術に触れる	2
			007	読書のまち八王子の推進	7
			008	スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実	4
			009	社会人の学び直しの支援（リカレント教育）	2
03	共生社会実現に向けた生涯学習の支援	14	010	障害のある人の生涯にわたる多様な学びの支援	6
			011	健康寿命の延伸につながる生涯学習の取組	5
			012	性や国籍にかかわらない社会参画につながる学び	3

■目指す姿

●子どもたちが家庭の環境によらず、多様な体験活動に参加できている。
●誰もが、いつでも、どこでも、学べる環境で、生涯にわたり多様な学びに取り組んでいる。
●みんながともに学び、みんなが地域の一員として支えあいながら生涯学習活動に取り組んでいる。

■施策の方向性

●子どもが大人とともに学びあう機会を充実します。
●家庭環境によらず、全ての子どもたちが体験活動に参加できるように取り組みます。
●学びのきっかけづくりや、いつでも学び直せるなど、多様な市民ニーズに対応した学習環境づくりを進めます。
●共生社会の実現に向けた学習機会を充実します。

■令和 2 年度（2020 年度）生涯学習審議会評価

- 実施時期や形態によりやむなく中止となった事業もあるが、内容や方法を変更して実施できた事業もあり、コロナ禍であっても市民の学びを支え続けようとした教育行政の姿勢は高く評価できる。
- 約半数の 26 事業が変更して実施できたことが素晴らしい。コロナ禍で制限された生活の中で、市民の学びを止めない環境づくりは今後も続けてほしい。
- 定員を絞り込んだ事業も、参加者の満足度が高い等の結果を得ており、当該事業の目的を見つめ直し、あらためてどのような市民にどのような学びの機会を届けるかを熟慮する機会になるとよい。
- 誰もが、どのような環境でも学べるためには、コロナ禍に限らず、インターネットでアクセスできることが選択肢として重要になってくると考えられる。
- 動画やオンラインを用いた事業は、配信するのみで条件整備が十分とは限らないことから、学習者がオンライン・ツールを使えるようになるための支援を提供できるとよい。
- パークライブラリーとしての読書空間の創出や非来館型のサービスの拡充など、読書のまち八王子の推進において、コロナ禍を契機とした新たな図書館事業の展開は特筆され、ポストコロナ時代の生涯学習政策の方向性としても非常に高く評価できる。
- コロナ禍の現状は、孤立化・孤独化を招きやすい状況にあることから、乳幼児をはじめ親子を対象、また青少年や成人など、広い年齢層を対象とした生涯学習の機会の提供は、心豊かに、また穏やかに暮らしていくために必須の「社会的環境」であると思われる。今後もこのような機会の充実が図られるように望みたい。

基本施策２ 学びから広がる地域づくり ～いかす・つながる～	生涯学習関連事業 58 件

施策の展開		事業数（件）	具体的な施策		事業数（件）
04	学校、家庭、地域で支える子どもの育ち	11	013	地域全体で子どもの育ちを支える	4
			014	学校と地域との連携・協働による生涯学習活動	4
			015	子育て世代がつながるきっかけづくり	3
05	地域を豊かにする学びの還元	18	016	地域での活動のきっかけづくり	5
			017	地域で活躍するボランティアの養成・支援	8
			018	地域の課題解決につながる学びの提供	5
06	学びをいかし、みんながつながる環境の充実	16	019	学習成果の発表と学びの広がり	11
			020	日頃の成果の発揮と学ぶ意欲の醸成	5
07	高校生・大学生等、若者が活躍できる機会の充実	13	021	高校生・大学生等と地域がつながる、地域でいかす	9
			022	若者の社会的自立に向けた、学びによる支援	4

■目指す姿

●全ての子どもたちの健やかな育ちを地域で支えている。

●学びが個人にとどまらず、社会や地域での活動に活かされ、人と人との交流が新たな学びにつながり、学習成果が循環している。

●大学生等が地域で活躍できる機会が充実し、大学生等と地域が高めあって、協働している。

■施策の方向性

●地域で子どもと子育て家庭を応援できるよう、家庭教育の啓発を図ります。

●子育てについて悩みがある保護者や、保護者同士、学校の先生との接し方について分からないことを相談する機会をつくります。

●より多くの人が保護者を支援する活動ができるよう、保護者同士や地域をつなぐ人材育成を図ります。

●市民団体等との協働によるイベントの実施を通じ、市民が学習成果を発表する機会や、地域で活躍できる機会を拡充させ、市民交流を促します。

●生涯学習を通じて得た知識や経験が、社会や地域での活動に活かされるよう、ボランティアや指導者の育成、イベントの実施を通じて市民のネットワークづくりを支援します。

●学園都市である本市の強みを活かし、大学・短期大学・高等専門学校と学生、地域の人とのつながりを促します。

■令和 2 年度（2020 年度） 生涯学習審議会評価

- コロナ禍において、学校では正規の教育課程の実施がまず大きな課題となったが、社会教育行政としては、子どもの放課後の安心・安全な時間と空間を保障し、学校単独では難しいような体験活動を充実する等の役割が求められる。こうした役割について、感染症対策を徹底しながら、地域とともに放課後や長期休業中の安心・安全な居場所づくりと体験活動の機会を提供できたことは非常に高く評価できる。
- オンライン技術が進み、情報のやり取りなどの交流は可能になっているにも拘らず、中止や延期になっている事業が散見されるのはいかがなものだろうかという感想を持った。中止や延期の判断に際しては、さらに工夫できる余地があるかについて、一層検討を深めていただきたい。
- 中高生はボランテイア以外でも地域で何か成せる存在であるため、その点の啓蒙含め活躍の機会が増えると良いと思う。
- 「いかす」という事業は大事だと思うが、現状は成功している例はほとんどない。今後単発的な「いかす」ではなく持続可能な「活かす」事業を考えてほしい。

- 子どもの貧困が問題になっている今、「56.放課後子ども教室」や「57.放課後こども教室と学童保育所と連携の拡大」はさらに事業を拡大し、未来への投資をしてほしい。
- 「58.子育てひろば（親子ふれあい広場・親子つどいの広場など）、59.子育て応援ひろば、60.家庭教育支援講座」といった「子育て世代がつながるきっかけづくり」の講座は、子育ての悩みを一人で抱え込み、子どもに関する不幸な事件が多発している現代社会において必要な講座だと思う。特にコロナ禍の中で、外に行く機会も少なくなっているため、さらなる充実が望ましい。
- コロナ禍という誰にとっても困難な状況を、地域と学校が共有し、子どものために新たな連携・協働の関わりを模索することができた。そのほか、コロナ禍によってボランティアの養成や支援の機会は減少したが、「活動したい」という市民の思いがコロナ後に開花できるよう、活躍の場の創出にも注力していくことが期待される。

基本施策３　学びを支える基盤づくり	生涯学習関連事業 22 件

施策の展開		事業数（件）	具体的な施策		事業数（件）
08	学びのきっかけとなる情報の提供・学びの提供	11	023	学びへの新たな参加を促す取組	1
			024	生涯学習の相談体制の充実	2
			025	生涯学習機会の情報の発信	8
09	生涯学習環境の整備	11	026	生涯学習環境の充実と活動の場の提供	7
			027	誰もが生涯学習へ参加しやすい環境づくり	3
			028	ICTを活用した生涯学習機会の充実	1

■目指す姿

●生涯学習情報を広報紙・インターネットなどの複数の媒体で、分かりやすく提供し、市民の生涯学習活動の充実につながっている。

●生涯学習施設が、市民が気軽に集い、つながれる、学びのきっかけづくりの場として機能している。

■施策の方向性

●生涯学習を始めたい市民、学習をより深めたい市民、サークル活動やボランティア活動など人とのつながりを求める市民が、必要とする生涯学習情報を分かりやすく入手できるよう、情報提供の環境を充実します。

●市民が気軽に相談できる環境のほか、専門的な質問に対して、適切な案内と助言を行うことができる人材を養成するなど、相談体制を充実します。

●身近な場所で、生涯学習活動がしやすいように環境整備を進めます。

■令和 2 年度（2020 年度）生涯学習審議会評価

- 生涯学習機会の情報の発信について、コロナ禍においても着実に事業が実施された。また、若い世代への施設利用の促進として実施されている「フリースペース」事業は、感染対策を図りながら実施した結果、多くの利用があり、若者たちのニーズを捉えられる。コロナ禍であっても学びを止めずに奮闘する若者たちを、空間という面から支援できたことは、長期的な視野で市民の社会参加や生涯学習の広がりを促していく基盤として重要であると考える。
- SNS や紙面等の様々な媒体で情報を収集し、選択できる体制になっていることが良いと思う。
- 情報の発信だけでなく学び方のひとつとして、zoom 等のウェブ会議ツールを用いて参加できる講座や、録画を見ることができるといった受講環境が増えると、場所や時間にかかわらず学びを続けられる。
- 「129．ICT を活用した生涯学習機会の充実」は今後とも必要になってくるため、力を入れて取り組んでほしい。

基本施策１～３　全体にわたる評価	生涯学習関連事業 129 件

■令和 2 年度(2020 年度) 生涯学習審議会評価

- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策に集中して世界中の人々が今までにない不安感を抱いた年であったが、その中でもできることから活動が始まっている。今年度もできることから徐々に事業の取組の継続を行い邁進していくことが重要である。
- 新型コロナウイルス感染症で様々心を砕き工夫している。できる限りのことをして学びを止めないのは素晴らしいと思う。中止や延期、企画通りに運ばなかった講座も、状況により次回に期待したい。
- 「基本施策1. 誰もが学べる環境づくり」「2学びから広がる地域づくり」は新型コロナ感染症により、中止や変更しての実施が多かったため評価が難しい。
- いつでもどこでも誰もが自由で主体的に学ぶことのできることが生涯学習の理念である。子どもから大人まで、市民の学習活動の条件整備を行うことは、コロナ禍であっても教育行政に課せられた重要な責務である。感染症への対策にも大きな配慮が求められるなかで、コロナ禍だからこそ、講座のオンライン化、新たな屋外事業の試み、非来館型サービスの展開など、市民の学びを支えようとする意欲的な事業が企画・実施されたことは非常に高く評価される。感染症への対策等で実施が難しかった事業も、単に中止という位置づけではなく、目的や意義をあらためて確認してコロナ後の事業改善につなげるための大切な時間として令和 2 年度を位置づけて、ポストコロナ社会を見据えた事業の目的の再定義や新たな方法の開発をすることが望まれる。中止となった事業こそ、令和 3 年度以降の事業の発展に期待したい。
- 持続的発展に関する講座や取り組み、自然との付き合い方セミナーなど、持続的発展に寄与しながら市民生活の質の向上に資する生涯学習ならではの取り組みが、今後一層計画されていくように期待する。
- 今後を見通すと、対面を基本とする事業に加えて、オンラインを活用した事業の準備が不可欠だと思われる。そして両者を併用したハイブリッドの実施準備をお願いしたい。高齢者向けのオンライン入門講座や市民団体と連携してオンラインお助け隊や学習機会の提供をしていくべきである。
- オンライン技術に寄り掛かり過ぎることについて、危惧がある。
  確かに必要に迫られてオンラインを活用していかざるを得ない状況にあるが、オンライン技術は対面による対話や交流にとって代われない側面があることも、きちんと認識したうえで、今後の計画の立案や事業の評価にも反映させていく必要があると思われる。